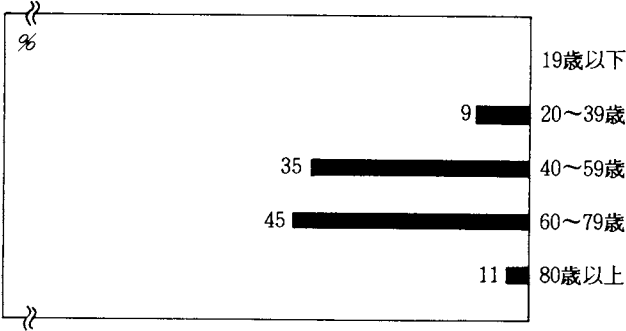


檀信徒意識調査

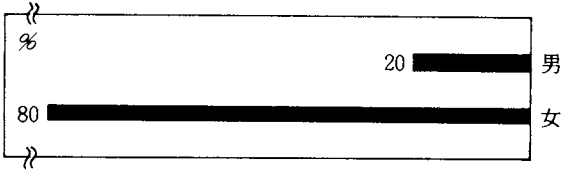
○ 解答方法——全問とも解答番号を○で囲んで下さい。尚、答えの○が二つ以上あってもかまいません。

(昭和六十一年六月十四日 広島県護法会)

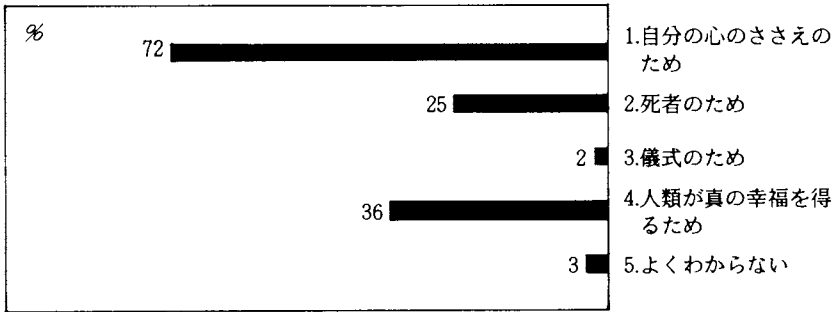
年 齢



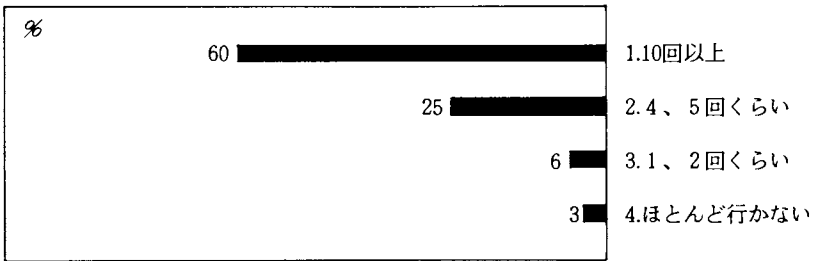
性 別 (合計 195 名)



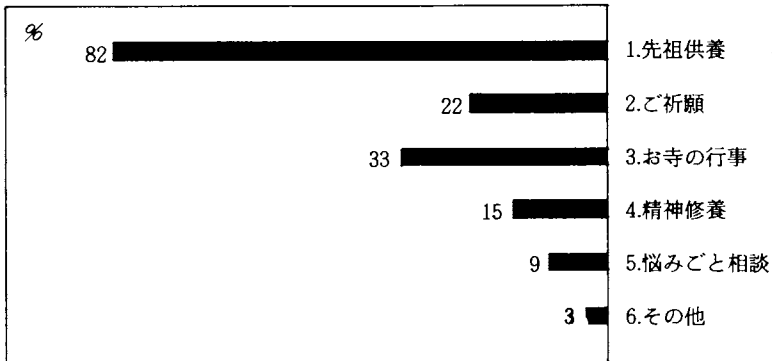
1. あなたは、何故宗教が必要だと思えますか？



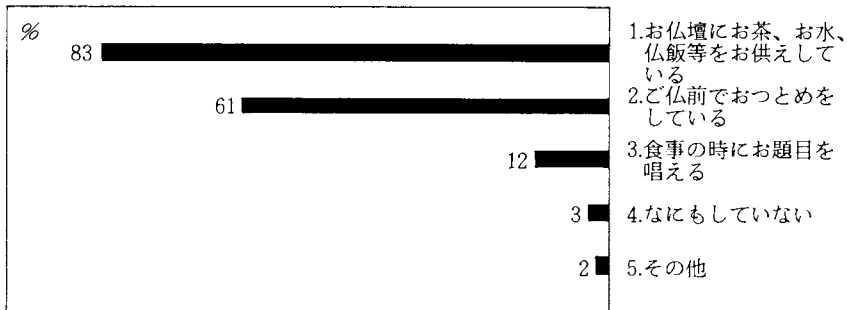
2. あなたは、1年間にどのくらいお寺(菩提寺)に参りますか？



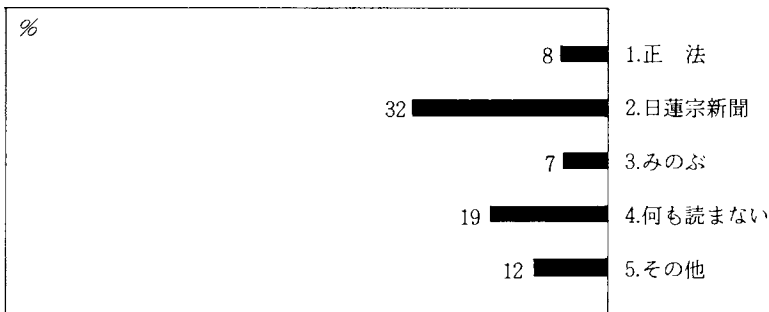
3. あなたは、どんな時にお寺(菩提寺)に参りますか？



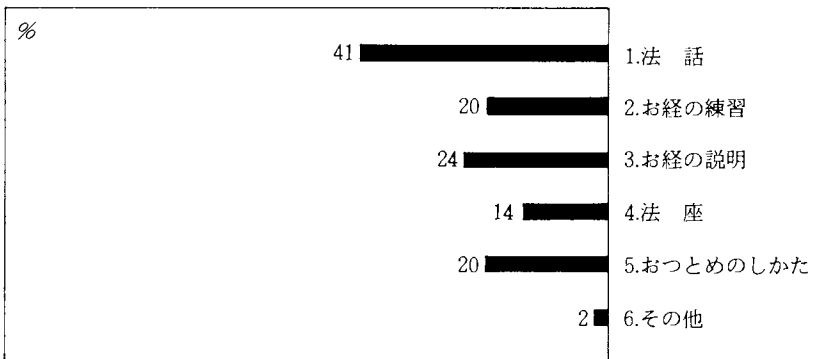
4. あなたは、家庭でどんな信行生活をしていますか？



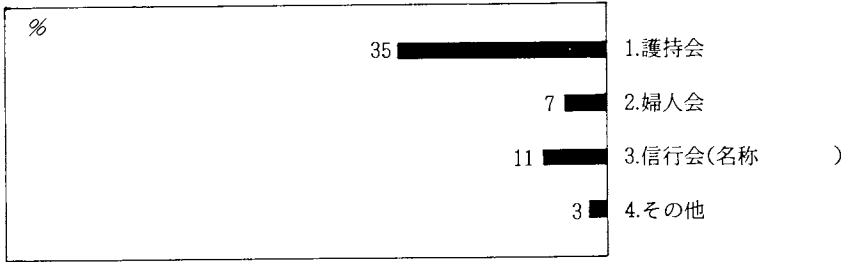
5. あなたは、日常どんな仏教書を読んでいますか？



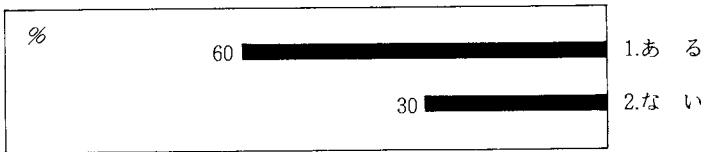
6. あなたは、これからのお寺(菩提寺)に何を求めますか？



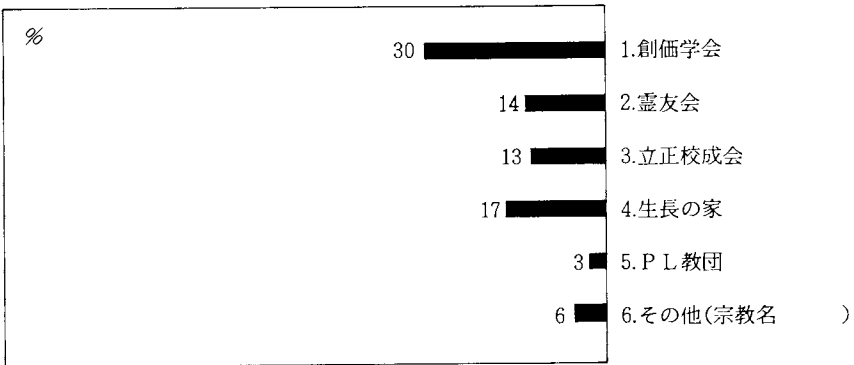
7. あなたは、お寺(菩提寺)でどんな会に入っていますか？



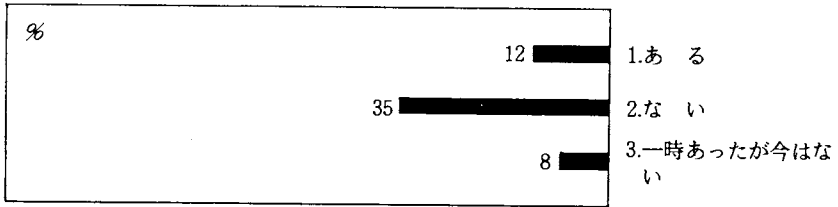
8. イ あなたは、これまで他の宗教から入信の誘いを受けたことがありますか？



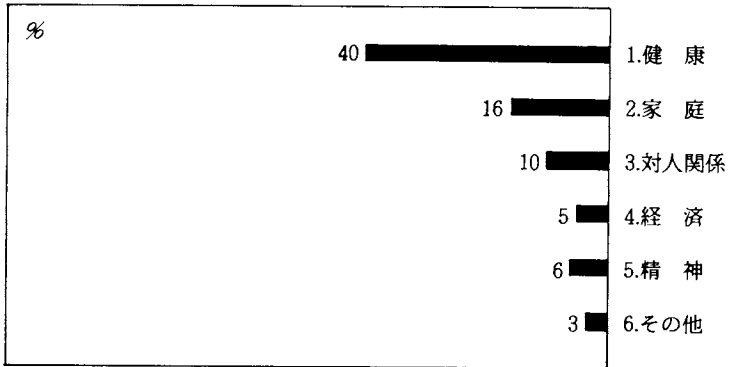
ロ 「ある」と答えた方は、何宗の勧誘でしたか？



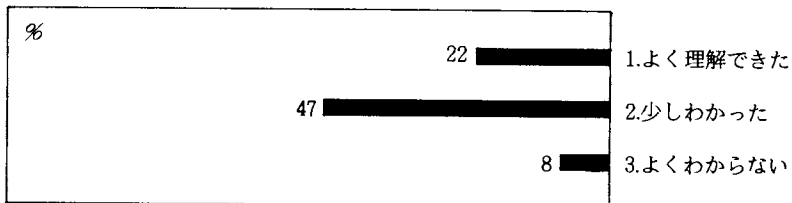
ハ 勧誘を受けられた方は、現在もその宗教と関わりがありますか？



9. あなたは、今どんな悩みがありますか？



10. あなたは、今日の信行をどう思いますか？



アンケートの結果と問題点

広島県布教師会

- アンケートを寄せてくれた人——一九五名。このうち、五十歳〜七十歳代の人が七〇%を占めている。家庭・健康問題が大きな比重をもつ年代層である。
 - 八〇%の人が一カ月に一、二回菩提寺に参詣すると答えている。これを多いとみるか少ないとみるかは、教団の姿勢によるであろう。
 - アンケート①と③は、ほぼ正反対の類型を示す。すなわち、宗教の役割は単に葬送儀礼のためではないと知りつつも、実際の菩提寺との関わりは、それに終始しているようである。
 - “お題目のつどい”に参加している人々の家庭での信行生活は、アンケート④によると、ほぼ習慣化しているとみてよい。しかし、食事のときの合掌唱題が行なわれていない事實は、信行と家庭生活との関係を考えるうえで重要な事実ではなからうか。
 - アンケート⑤は、本宗檀信徒の在り方を示しているものといえる。
 - 参加の檀信徒の一〇%が、他の新宗教との関わりをもっていることの意味と重みを反省しなければならない。
- (このアンケートは“お題目のつどい”一〜四回の参加者の協力によって得られたものである。)